

2009

6 武士道

日本思想の解明

BUSHIDO:

The Soul of Japan

新渡戸稲造著 矢内原忠雄訳 李登輝解題

李登輝氏は、1862年生れの新渡戸博士(61年没)を深く敬慕して、この章の最初に、次のように述べられる。新渡戸先生は、一般の日本人の如く、2474の「一宗教の信仰者」として根本的に異なり、キリスト教の如く、儒教や仏教など、ありとあらゆる宗教や思想を闊達に引用しながら、いわゆる「道徳体系としての武士道」の本質を説き明かそうとされている。新渡戸先生は、「武士道の淵源」として最初に仏教を取り上げられている。

まず、仏教から始めよう。運命に任仕という平静な感覚、不可避に対する静かなる服従、危険災難に直面してのストイックな沈着、生を賤し死を親しむ心、仏教は武士道に対して、これらを喜ぶ。ある剣道の達人(注:柳生但馬守)が、門下に業の極意を教へ終った時、これに告げ言った、「これ以上の事は余の指南の及ぶところなく、禪の教へに委ねねばならぬ」と。

禪とは、デヤナ(Dhyana)の日本語訳であって、それは「言語に表現の範囲を超えて思想の領域に、瞑想をもちて達せんとする人間の努力を意味する。この方法は瞑想である。しかし、その目的は、私の領解が限りにおは、それらの現象は、底に横たわる原理、他はくは絶対

そのものを覚知し、かくして自己をこの絶対と調和せしむるにある。かくのとく定義にすれば、この教へは、一派の教へ以上のものであって、何人にも絶対の洞察に達せる者は、現世の事象を脱俗に「新しき天新しき地」と覚醒するものである。

ここは、かなり難解な部分です。「禪」の目的は、瞑想することであり、自己と「絶対」と調和させることだ、とされています。「絶対」とは何か。たとえは、キリスト教においては、神は絶対です。神を追求する過程で、人間はそれらの環境、すなわち時間と空間を通じて、自己の意識を深化するものです。「絶対との調和」とは、自己の意識を深化する。すなわち深く考え、寛く感じる心を持つということ。そうすることで、一段の高みに到達できる、と新渡戸先生は説いています。次に先生は、武士道の淵源に、神道を求めます。

仏教の与えりしものを、神道の豊かに供給した。神道の教義において刻みこまれたる、主君に対する忠誠、祖先に対する尊敬、自らに親に対する孝行は、他のあらゆる宗教においても教へられたものほどのものがある。これらで武士の傲慢な性格に服従性の賦与せられた。

神道の教義には、我が民族の二つの支配的特色とほぼ等べき愛国心および忠誠の念をこめて、某國のA.M.フット氏の「封建的および近代的日本、1906年」より引用。に「A.M.フット氏によれば、神の事を云ふは、この國の事を云ふに似たり。天の事か、地や人の事か、救主の事か、國の事を云ふに似たり。これを見分けることはしばしば困難である。いと、真に然りある。同様の誤同は我が民族的信仰「神道の諸案」の中心にも見られる。然り、その用語の曖昧なるに、論理的な頭脳の人からは混同と思われるであろうが、それは國民の本能、民族的感情を込めた構であるから、あるべき体系的哲学的もしくは合理的な神学を教へたものではない。この宗教は、「武士道」の中に忠義愛国を十二分に吹きこむた。これは教義としてよりも、利権として作用した。けれど神道は、中世のキリスト教と異なり、その信者に対しては、なんらの信仰の要求も規定せず、むしろ直截簡單なる形成の行為の規準を供給したものである。

新渡戸先生の言いたかったことは、すなわち、神道における愛国心は、自然な民族的感情に根ざしたものであり、国家によって、強制されるものではない、ということだ。

どんな頑固な錆でも簡単・スピーディーに除去 除錆剤兼短期防錆剤・塗装前下地処理剤 錆取りスワッチ君 シャブシャブ状 デッピングに適 粘着面・垂直面に便 錆取りスワッチ君 ECO COSMO 株式会社 エココスモ

これは、新除錆剤の御案内です。特色は、水溶性・無機質性であること。結果は、安全無害の無類の錆取り剤。

毎度の黄色い裏表に一杯一杯色々書きをたのび御吟味お預け下さい。 (株)エフエフエさんの自費の卓上二三意気流に述べさせていただきます。

- ★主成分は無機燐酸で素手でOKです。防護服に着替は不要。作業後拭き。
★いま一つの自費は、「スワッチ君」安全無害の粘着剤を混入し、垂直面の塗付が容易にしました。
★SRC建築、橋梁・トンネル等の土木の鉄筋・H鋼用は、大変好評の理由。
★標準仕様表を黄色い裏表の末尾に掲載いたします。
武蔵敬白